



巻頭 Photo 高尾山の生きものたち

春近し、葉痕（ようこん）は可愛い

冬の間、氷点下の寒さの中で、樹々は新芽を春まで守るために色々な対策をとっています。

分厚い鎧（鱗片とよばれる堅い殻）をまとうもの、ふさふさの滑らかな毛で寒さから芽を守るものなど、色々な形（冬芽）で次代の命を守っています。

冬芽は多くの場合、葉の落ちた痕、葉痕（ようこん）と呼ばれる部分の側に付いています。葉痕の形にも特徴があり、葉の落ちた冬の樹木の名前を特定する時の助けになります。

葉痕の中には、動物の顔に見えたり人の顔に見えたりと面白く、また可愛らしいものも多く、ファンもちらほらいるようです。（松）



カラスザンショウ



オニグルミ



モミジイチゴ



クス



コクサギ

二美ちゃん 富ちゃん 皿ちゃんの



NO.29

桂（カツラ）～カツラ科～

桂は溪流沿いの水際によく生え、株立の大木が多く、雌雄異株で葉がハートの形をしており、果実は未熟のうちにはミニバナナのような実をつけます。高尾では大平や日影に人工林があります。

名前の由来は、葉が香りを発することから、「香出（かづら）」が転訛したと言われていています。紅葉の時期をむかえると、木の葉が甘い香りを漂わせます。わたあめを連想させるその香りは砂糖を焦がした時に出る香りの成分と同じものです。



黄葉したカツラ(11月)



甘い香りの葉



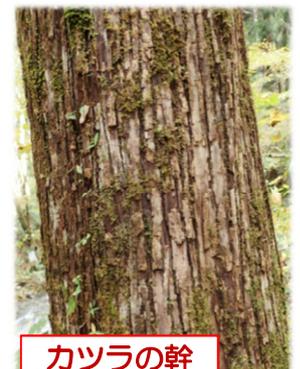
カツラの木理

カツラの木理（もくり）は通直、肌目も緻密。堅さも強度も中庸で、材のバラつきがなく、加工性もよく、彫刻材や鋳物・靴木型、碁盤、和裁の裁ち板、洗濯板（懐かしい）、家具の引出しの側板にも利用されてきました。特に碁盤は、高級品にはカヤが使われていますが、通常の良品ではカツラが多く使われています。

材質は大きく分けて、色が濃くて赤味が多い「緋桂（ヒガツラ）」と、色が淡くて白っぽい「青桂（アオカツラ）」に区別され、材質はヒガツラが良いと言われています。

カツラは葉も樹形も美しいことから、街路樹や公園緑地の景観木、緑陰樹としてよく利用されています。

大木になることから、神社のご神木など、天然記念物にも指定されている大木が全国に残っています。（皿）



カツラの幹

森林カレッジⅣ

森林の恵みと共に、 炭焼き、そして森林の香り

平成30年1月20日に、「森林カレッジⅣ」を開催しました。第1回の5月の森林観察を皮切りに、第2回は7月の草刈体験、第3回は10月の除伐体験と回を重ね、いよいよ最終回の炭焼き体験です。当日はやや冷え込みも緩んで過ごしやすい中、数ヶ月ぶりに参加者の皆さんの元気な姿を見ることができました。

開会式の後、早速炭焼き体験が開始されました。今回はドラム缶窯2、伏せ焼き窯1、の3班に分かれての実施です。まず窯の中に隙間無くギッシリと竹材を詰めていきます。詰め終わったらフタをして口火を焚きます。ここで重要なのは中に詰めてある竹材を直接燃やすのではなく、口焚きの熱風を窯の中に送り込むことです。すると、はじめは白く濃い煙が煙突からモクモクと出てきますが、窯の中の温度が徐々に上昇してくるにつれ、煙の色が徐々に薄くなってきます。おそらく窯の中では順調に炭化が進行している状態となっています。



谷田貝先生による講義（炭の構造ほか）

昼食を挟んで、午後からは東京大学名誉教授の谷田貝光克先生による講義「森の恵みと共に～炭焼き、そして森林の香り～」と題しての講義を行いました。講義の内容は、炭の構造および用途と効能・効果についての説明、森から生み出される木材・炭の恩恵が徐々に見直されてきている実態、世界中の国々での炭焼きの実態など、興味の尽きない内容となっています。



メモをとり、熱心に聴き入るカレッジ生たち



ドラム缶窯竹詰め中



伏せ窯にも隙間なく



ドラム缶窯口焚き。煙を止めないように・・・



伏せ窯。こちらも全力で扇ぎます

講義が終了すると、煙突から出てくる煙が青白く薄い色に変わってきました。そろそろ窯を閉める時間が近い様子です。今回は窯出しまで連続して体験出来ませんでしたが、事前に焼いて置いた炭を窯出しして皆さんにお土産として持ち帰っていただきました。

森林カレッジでは一年間を共に過ごしてきたことから、修了式では若干の寂しさも漂っている様子でしたが、参加者の皆さんは、この経験を生かして次のステップへと進んでいただきたいと思います。（磯）



カレッジ修了式。1年間お疲れ様でした！



炭焼体験

八王子市立 城山小学校

今シーズン最大級の寒波が日本列島を覆った1月11・12日に、八王子市立城山小学校4年生97名が同校の敷地内に設置してある炭焼き窯（平成26年度卒業生が3基の炭焼き窯を卒業記念に作設）で炭焼き体験を実施し、高尾森林ふれあい推進センターから炭焼きの指導と森林学習のため出前森林教室を行いました。城山小学校は15年ほど前から炭焼き体験を実施しており、近隣の方々の協力を得ながら炭材の確保などを行っています。

開校式後には、クラスごとに分かれ早速作業開始です。各担当の職員から注意事項を聞き、昨年12月に割った竹を窯の中に重ねていきます。その後は子どもたちが拾い集めた落ち葉を隙間なく詰め込み、土をかぶせて炭焼きの準備が完了。焚き口から子どもたちが二人一組となり交代で団扇により熱風を窯の中を送りこみ、二巡し終わらないうちに安定燃焼の状態となり、あまりの早さに職員の方が慌ててしまうほどでした。



あおぐのが大変！

隙間なく竹を詰めます



大収穫だ！

折り鶴もきれいな花炭に



閉校式では、代表者から「貴重な体験ができました。ありがとうございました。」「森林の働きを詳しく知ることができました。」などの感想があり、参加した子どもたち一同からお礼のあいさつを受けました。また、先生からは「また来年もお願いします。」とありがたい言葉をいただきました。協力しながら過ごした二日間。子どもたちとも打ち解け始めたばかりでしたがお別れをし帰所しました。（関）

インド環境森林気候変動省の視察受入れ！

国際協力機構（JICA）インド事務所より、インド国「森林管理能力強化・人材育成事業」の協力依頼があり視察団を受け入れました。

1月14日～19日の期間中、京都府、岐阜県及び茨城県つくば市（森林総合研究所）各地を視察等されました。

1月18日午前には林野庁への表敬訪問の後、午後高尾森林ふれあい推進センターに立ち寄られ、当センター所長より、事業概要や施設等について説明を行いました。インド側の関心があったエコツーリズムのイベント関連について重点に説明を行い、特に森林ボランティア及び森林環境教室の活動内容等に興味深く感じていたようです。視察団からは、「ボランティアの方々はどう集めるのか」等の質問や「幼児から成人までを対象にしたシステムティックな森林環境教育と、NPO等との連携が密接に結びついていることがよく

理解でき、大変参考になりました。」と感謝の言葉を頂きました。

その後、隣接する高尾599ミュージアムを見学され、次の視察の多摩森林科学園及び森林技術総合研修所へ向かいました。

今回はタイトなスケジュールでの視察でしたが、インドにおける森林分野の人材育成の取組の推進に大いに役立つことを願っています。（屋）



視察団の皆さんとセンター玄関前で記念撮影

高尾陣馬特別警戒

年末年始・高尾山パトロール実施報告



初日の出スポットとして知られる高尾山。毎年、多くの人たちが初日の出参りに訪れるため、警察、消防をはじめ関係機関・団体で組織する「高尾陣馬特別警戒連絡協議会」では、大晦日から元旦にかけて登山道や高尾山頂周辺で、事故防止、犯罪防止、山火事防止等を目的に入山規制やパトロール等を実施しています。



日の出を待つ人で混雑する山頂



下山前の集合写真



2018年の幕開けです

今回は、当協議会の一員である当センターからも2名が参加し、東京神奈川森林管理署の4名、当センターのフォレストサポートスタッフ1名の計7名で、大晦日の22時から元旦の7時まで交替でパトロールを実施し、山火事防止を呼びかけるとともに夜道での滑落・転倒防止等の注意喚起を行いました。

東京は、130年ぶりの大晦日の初雪で冷え込み、空模様も怪しかったためか例年より人出が少なかったようですが、山火事や事故等の発生もなく、日の出時刻を少し過ぎた頃には初日が昇り、清々しい新年を迎えることができました。(谷)



初日の出に照らされた富士山



高尾山中は厳しい冷え込みでした
(左の写真はシモバシラ)



編集後記



先月大寒波が襲来した高尾山。1月22日には麓で20cm近くの積雪がありました。私事ですが、足を取られて転倒し、大の字で埋まりました。(松)

Forest 通信 NO348

発行:林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター 国民の森林、国育林

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

